

130. 木造十一面観音立像保存修理事業

東妙寺 代表役員 早田 明弘

<修復前>



木造十一面観音菩薩立像

像高（化仏含まず）165.4cm

髪際下 148.4cm

総張 50cm

総奥 38cm

佐賀県

解説

この十一面観音像には体内に墨書があり、正和4年（1315）に、九州慶派を代表する仏師である湛譽と湛眞が制作したことが記される、鎌倉時代の貴重な基準作品である。本像は静的で落ち着いた表現を見せ、湛譽と湛眞の作風をうかがわせる作品であるが、後世の改変や全体の痛みによる頭部脱落の恐れなど、速急に修理が必要な状態となっていた。

今回の修理によって制作当時の姿に近づき、十全な姿で鑑賞・研究に供することができるようになったことに加え、新たな体内墨書の発見で、本像がほかの寺院の本尊として制作されたことや修理歴などが判明し、本像の更なる歴史的な位置づけが進むこととなった。

<修復後>



修復業者
浦仏刻所

修復内容

全軀の各矧目に緩み、打ち付けられた鉄釘、鋸が腐食していた為解軀を行なった。

虫蝕朽損が見られた個所は必要に応じて木質強化を行ない、割損欠失個所は桧材及び漆木屎で整形補作を行なった。

表面の漆箔は基本的に浮き上がり風化の著しかった後補の漆箔層は除去し、布貼りの見られた下層の漆箔個所は剥落止めを行なった。

眼部は後補の木眼が嵌入されていた為、取り離し新たに水晶製の玉眼及び白毫を新補した。

首柄前面は短く安定が悪かったので桧材で補作を行ない安定を図った。

亡失していた頭上面（11面）及び持物（水瓶）を桧材で新補し漆箔後古色付けを行なった。

文化財修理解説書

寶珠山 東妙寺

木造十一面觀音菩薩立像



完 成



修 理 前

- I. 名 称 木造十一面観音立像 1 軀
- II. 法 量 像高（化仏含まず）165.4 cm 髪際下 148.4 cm
- III. 所 在 地 寶珠山 東妙寺 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町田手 1728
- IV. 所 有 者 同上 （早田空順 御住職）
- V. 品質構造 桧材 寄木造 玉眼 漆箔
- VI. 損傷状況
1. 本 軀
- 全軀において漆箔彩色の剥落が見られた。
- 矧目の随所に緩みが見られ、打ち付けられた鉄釘が腐食していた。
- 両足先材が離脱していた。
- 虫蝕朽損個所が随所に見られ、両肩・右袖先・裳裾等が著しく、右袖口においては大きく朽損欠失していた。
- 化仏及び頭上面が全て亡失していた。
- 白毫が亡失していた。
- 眼部に木眼が取り付けられていた。
- 右手第 2 指 2 節先及び左手第 5 指 2 節先が割損欠失していた。
- 左手持物（水瓶）が亡失していた。
- 右袖口、右背部柄、左肩下、左袖下部、裳裾左側面等、朽損欠失個所が多く見られた。
- 左右袖等随所に後補材が見られた。
- ※軀内に墨書有り。
2. 台座
- 随所に虫蝕朽損欠失個所があり、特に背面及び底面が著しかった。
3. 光背
- 無し。
- VII. 修理仕様
1. 本 軀
- 浮き上がり、剥落の著しかった後補漆箔は基本的に除去し、現状最下層の布貼り下地を施した漆箔層は除去せず保存した。頭部、左右袖部等の後補材に見られた後補漆箔は全軀のバランスを考慮し除去せず、ふのり及び膠で剥落止めを行った。
- 各矧目に緩みが見られた為、全面解軀を行ない、矧面の清掃調整後、膠及び竹釘及び柄で緊結した。この時、腐食していた鉄釘は除去し、生じた釘穴は桧材で補作した。
- 解軀後、軀内及び矧面にも虫蝕朽損個所が多く見られた。虫蝕朽損個所に、アクリル樹脂《パラロイド B-72 溶液（希釈剤：ソルミックス A-7＋酢酸エチル混

合液)》を含浸し、木質強化を行なった後、朽損欠失箇所は桧材及び漆木屎（生漆+麦粉+木粉）で補作整形した。虫蝕朽損欠失箇所の著しい箇所は、僅かに現存する彫刻面を基に可能な範囲で復元補作した。

亡失していた化仏及び頭上面を桧材で新補した。

亡失していた白毫を水晶製で新補した。

両眼の木眼は除去し、水晶製の玉眼を新補し、桧材で新補した玉眼押えを竹釘で固定した。

後補頸部材の長さが不足し頭部材が不安定であった為、首柄下部を桧材で補作し、安定を図った。また、後補頸部材に取り付けられていた調整材を除去し、頭部と軀部との割矧の矧目の調整を可能な範囲で行ない、前傾気味に取り付けられていた頭部材の調整を行なった。

割損欠失していた右手第2指2節先及び左手第5指2節先を桧材で補作した。

亡失していた左手持物（水瓶）を桧材で新補した。

右袖口、右背部柄、左肩下、左袖下部、裳裾左側面等の朽損欠失箇所は桧材及び漆木屎で補作整形した。

解体後、左上腕から肘部の彫刻面が露わになったが、左袖先後補材を含む随所の後補材は、修理墨書が明記されていることを考慮し、現状のまま使用した。

2. 台座

虫蝕朽損箇所はアクリル樹脂《パラロイド B-72 溶液》を含浸し、木質強化を行なった後、漆木屎で補作整形した。

隅足付框座を桧材で新補し、漆塗りを施した。

3. 光背

新補しなかった。

* 以上、修理箇所は他に馴染むように古色を行ない、全軀の漆箔彩色は行なわなかった。新補した化仏及び頭上面及び水瓶は漆箔を施し、他に馴染むように古色を施した。

VIII. 工 期	2 ヶ年（令和 5 年 10 月 12 日～令和 7 年 11 月 27 日）
IX. 施工場所	浦仏刻所工房内 （福岡県糸島市二丈一貴山 849-1）
X. 監 督 者	佐賀県立博物館（竹下正博）

完 成



右側面



正面

完 成



背 面



左 側 面

修 理 前

右 側 面



右 側 面



正 面

修 理 前



背 面



左 側 面

損 傷 状 況



頭部 矧目の緩み及び化仏・頭上面・白毫の亡

損傷状況



左肩下 一部欠失



右袖先 虫蝕朽損欠失及び右手第2指2節先 割損欠失



左手第5指2節先 割損欠失
持物（水瓶） 亡失

損 傷 状 況



裳裾正面 矧目の緩み



左袖及び裳裾左側面 朽損欠失及び亡失状況

損傷状況



両肩 虫蝕朽損状況



背部 鋸取付痕及び右背面柄の亡失



裳裾 虫蝕朽損欠失状況及び右袖先背面材の亡失

損 傷 状 況



両足先 離脱



両足先 朽損状況



像底 矧目の緩み及び虫蝕朽損欠失状況

損傷状況



上 面



正 面



左背面



底 面



台座 虫蝕朽損状況

解 軀 中



左右側面材解軀後

解 躰



正 面



背 面

解 躰 部 材



頭部材



木眼 嵌入状況



頭部正面材 干割れ状況

解 軀 部 材



軀幹背面材



軀幹中間材



軀幹正面材



軀幹正面裳裾材
※割損離脱

解 軀 部 材



右側面材



右腕



漆箔の上に見られた後補塗装



明らかになった左上腕部から肘

解 軀 部 材



矧面及び軀内等に見られた虫蝕朽損状況

補作組上げ状況



玉眼及び玉眼押えの新補



新補玉眼及び玉眼押え 取付後



後補頸部材下部の補作

補作組上げ状況



頭部材 補作組上げ後（化仏及び頭上面の新補）

補作組上げ状況



躯体正面材 体内虫蝕朽損箇所及び鉄釘穴の補作

補作組上げ状況



(正面)

(背面)



軀幹中間材 亡失箇所及び虫蝕朽損箇所及び鉄釘穴の補作

補作組上げ状況



骸幹背面材 骸内虫蝕朽損個所及び鉄釘穴の補作

補作組上げ状況



軀幹材 補作組上げ後

補作組上げ状況



右側面裳裾材 補作状況



左側面裳裾材 補作状況



両足先 朽損欠失個所の補作及び左足先柄の新補

補作組上げ状況



軀幹材と左右裳裾材 補作組上げ後

補作組上げ状況



右側面材 補作状況

補作組上げ状況



左側面材 補作状況

補 作 後



化仏及び頭上面の新補



両手指先 割損欠失個所の補作



左手持物（水瓶）の新補

補 作 後



正 面



右側面



背 面



左側面



上 面



底 面

台座 虫蝕朽損欠失個所の補作



框座の新補

補 作 後



右側面



正面

補 作 後



背 面



左 側 面

墨 書



【赤外線写真】

頭部正面材 内側

梵字「キヤ」



【赤外線写真】

軀幹正面材 内側

石垣寺本尊十一面観音

正和二、三年乙卯九月廿六日院主権少僧都典障金剛行慶

大佛師美濃法橋湛真

歳次

大佛師上総法橋湛譽

願主善恵

天保六年未八月十五日

大佛師下関友市

文治



【赤外線写真】

軀幹背面材 内側

(梵字キヤ) 奉再興十一面觀世音菩薩

寶永七庚寅歲五月十八日

施主尊光敬白
大佛師法橋定悦



【赤外線写真】

奉再建
十一面尊像
石荅院現住覺順長老代

軀幹材左側面 矧面 (※中間材・背面材)

墨 書



時于天保六未天

八月吉祥日佛師長州下園友市

【赤外線写真】

軀幹材左側面 矧面 (※主に正面材・中間材で僅かに背面材に及ぶ)



再興
現住
信士
智井振道

頭部背面材 矧面 (※刻銘)

令和 7 年 11 月

浦仏刻所 〒819-1622 福岡県糸島市二丈一貴山 849-1
TEL 092-325-0748 FAX 092-325-1016 E-Mail eigaku@bronze.ocn.ne.jp